IBULIVE いぶりぶ

いぶり+Live

医療法人 社団 いぶり腎泌尿器科クリニック 広報誌 泌尿器科・血液透析

夏 号 NO.30 季刊誌

坪院長の健康講座

前立腺肥大症について

＝その2　治療＝

院長 坪　俊輔

今回は前号の後編として、前立腺肥大症の治療についてお話します。

良性疾患である前立腺肥大症の治療は、排尿障害という自覚症状の改善が主目的で、投薬による保存的治療が第一選択となります。表―1に一般的に使われている薬の内容を示しました。治療開始時には殆どの例でまずα―遮断薬を使ってみます。α―遮断薬は非常に有効な薬で、仮に効果が不十分でも別のα―遮断薬に変更する事で著効が得られる場合が多くあります。

前立腺の肥大が高度でα―遮断薬のみでは自覚症状や排尿効率が良くならない時には、前立腺を直接縮小させる5α―還元酵素阻害薬を併用する事で改善する事もよく経験します。（この薬には軽い抗男性ホルモン作用がありますが、大きな副作用は経験していません）なお、残尿が少なく排尿効率が保たれているにもかかわらず、頻尿や尿意切迫感などの過活動膀胱の症状が合併している症例では、抗コリン剤やβ3―作動薬をはかります。この場合、排尿効率の悪化に注意が必要です。

ほかに前立腺肥大症の症状とともに、下腹部や会陰部の違和感など慢性前立腺炎の症状を伴う症例には生薬や漢方薬を併用する事があります。初診時に尿閉の症例でも、尿道に管を入れっぱなしにせずに間欠導尿を併用しながら投薬治療を続ける事で、自排尿が可能になる症例が多くあります。（飲酒や便秘・風邪薬の服用などが原因で一時的尿閉をきたす事があります。）前立腺肥大症に対する薬物の進歩は目を見張るものがあり（最近ではPDE―5阻害薬という尿道抵抗を下げる新しいタイプの薬も使えるようになりました）、手術が必要になる症例は併用する事がありますが、手術が普及する前の20％程度で症例でも、尿道に管を入れっぱなしにせずに間欠導尿を併用しながら投薬治療を続ける事で、自排尿が可能になる症例が多くあります。（飲酒や便秘・風邪薬の服用などが原因で一時的尿閉をきたす事があります。）前立腺肥大症に対する薬物の進歩は目を見張るものがあり（最近ではPDE―5阻害薬という尿道抵抗を下げる新しいタイプの薬も使えるようになりました）、手術が必要になる症例は併用する事がありますが、手術が普及する前の20％程度で症例でも、尿道に管を入れっぱなしにせずに間欠導尿を併用しながら投薬治療を続ける事で、自排尿が可能になる症例が多くあります。前立腺肥大症は高齢の方に多く、合併症などから体力的に手術が難しい例があります。この場合、次善の選択として図―1に示すように前立腺部尿道に尿道ステントを留置する方法があります。勿論身体に合わない場合もあります。経験的には6割位はほぼ満足のいく結果と思われます。しかし前立腺肥大症に対する根治治療は図―2に示すTUR―Pが昔からゴールドスタンダードとされています。

最近では技術はもとより手術機器の改良も進み、TUR―Pはご高齢の方にもさらに安心して受けていただける治療になっていると感じています。

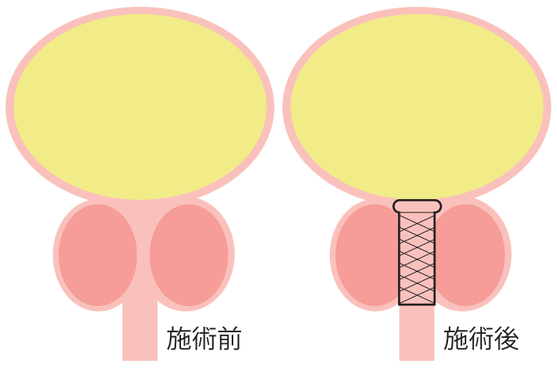
以上、前立腺肥大症の治療につき、その概要をお話しました。

【表―1】

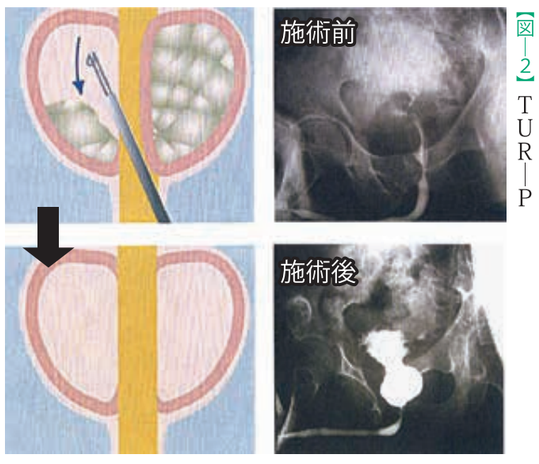
前立腺肥大症治療薬

α―遮断薬 PDE―5阻害薬	前立腺部尿道の抵抗を減少
5α―還元酵素阻害薬	＝前立腺の縮小
生薬・漢方薬	
抗コリン剤 β3―作動薬	OAB症状の改善

【図―1】尿道ステント



【図―2】TUR―P



新人さん紹介

今春新しく仲間入りした職員を紹介します。

大松澤　雅美 透析室看護師　信頼関係が大切…

見るからに明るい大松澤看護師、近くにいるだけで元気がもらえる感がある。伊達中―伊達高のゴールデンラインを歩み、バスケットで活躍、高校時代は毎年全道大会に出場、ベスト8が最高成績だった。166㎝の地元では長身のセンタープレーヤーも、全道では小柄な選手となり、強豪の札幌勢には歯が立たなかった辛い過去もある。

バスケットで培った努力を武器に「自立・安定」という意外な理由で看護師を目指し旭川の看護学校へ進学した。透析看護の経験は旭川の病院で7年半あり、「透析では患者様との信頼関係が一番大事」という持論を持つベテランといえる。当クリニックへも「透析と関わり合いたかった」と、この仕事に対する情熱を感じさせる。「嘘が通用しない仕事だから、勉強が大切」と基本を第一に、患者様に寄り添う看護師を目指し頑張っている。

笹岡　優 病棟看護師　積極的に仕事と向き合いたい…

笹岡看護師は母、祖母と三代にわたる看護師一家で、ごく自然にこの道に入った。性格はマイペースで「ゆっくりな感じ」と周りを和ませる雰囲気がある。高校までほぼ伊達育ち、室蘭の看護学校も伊達から通った。

泌尿器科での勤務は初めての経験となり「一からやり直しの気持ちで」と勉強に励む毎日。患者様に不利益を与えない、困らせないを目標に据え、頑張っている。専門病院だけに指導することも多く、様々な環境にある患者様との接点に積極的に関わり「役立ちたい」と意欲を見せる。

趣味は旅行と読書、旅先は京都が自分の波長と合うらしく大好きという。最近では温泉旅行もマイブームで「九州の温泉地めぐりをしたい」と夢を膨らませている。読書は「好きなものを、好きに読む」とこちらもマイペース、偏ったジャンルがないのが、この人らしい。

石原　亜由美 病棟・透析看護助手　患者様に安心していただけるように…

4月から看護助手という初めての仕事にチャレンジしている石原さんは、2人の女児を持つお母さんでもある。医療関係の仕事は義姉が看護師であったり、身内に介護士がいたことから関心は高く、迷いはなかった。

学生時代のアルバイトからサービス業の経験が長く、人と接することは苦にならない。高校生の時は小遣いはもとより、自動車免許の取得も自ら働き、稼いだお金で賄ったというしっかり者、幼い頃から自立心旺盛なところがあった。

2人目の子どもを授かり、育児でしばらく専業主婦をしていたが再び働き社会に貢献をと、当クリニックの募集に応募した。「分からない事ばかりで、早く一人前になりたい」と走り回る毎日。朝が早い勤務も、家族の協力で頑張っている。「早く役立つ戦力に」が当面の目標と定め、主婦、お母さん、看護助手の三役に挑戦している。

患者様からのご意見をご紹介します。

◎採尿トイレの手洗い水栓を、自動水栓に取り替えたらどうでしょう。水が出しっ放しでした。

【回答】貴重なご意見をありがとうございました。
早速ご指摘の件に関しまして検討致しました結果、自動水栓の取り替えには、設備全体を取り替える必要があり、トイレ床面積の関係から現状では無理であると判断いたしました。今後は職員による巡回などでご指摘の問題に対応、改善を図っていきたいと思います。

■発行：いぶりぶ発行委員会　伊達市梅本町2番地15いぶり腎泌尿器科クリニック内 TEL0142-21-1400 FAX0142-21-1401

■発 行/平成26年7月10日■4月・7月・10月・1月の年4回発行

※本誌掲載の写真、記事の無断転用は固くお断り致します。

●発行責任者：横井　浩

医療法人 社団 いぶり腎泌尿器科クリニック 泌尿器科・血液透析

お陰様をもちまして開院10周年を迎えました。皆様のご支援に心より感謝申し上げます。

ごあいさつ

いぶり腎泌尿器科院長 坪　俊輔

謹啓、深緑の季節を迎え、皆様には益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

さて、「地域に根差した医療」を基本理念に2004年7月に開設致しました当クリニックも、10周年を迎えました。これも基本理念に深いご理解を頂き、ご支援いただいた地域皆様のお力添えの賜と感謝申し上げます。

胆振、後志を中心エリアに一般診療から福祉関連など32施設の訪問診療も担当させて頂き、お陰様でエリア内における認知度も徐々に高まり、開院当初より思い描いていた地域医療を担う中核施設の基盤がほぼ整いました。

今後は医療技術の向上は言うまでもなく、スタッフ個々の「人間力」を高め、地域からより信頼される組織となるよう精進してまいります。さらには地方医療を支えて行く責任を重く感じ、スタッフ一同努力する覚悟でおりますので、皆様の変わぬご理解とご協力を重ねてお願い申し上げます。

記念祝賀会を開催

開院当初からのスタッフに感謝状

7月5日

当クリニックの10周年を祝い、これを機に更なる発展を誓い合うことを目的にした祝賀会が7月5日、役職員合わせて70人が出席し伊達市内のホテル・ローヤルで開かれました。

祝賀会では、開院当初から勤務するスタッフ28人に対し、坪院長から一人ひとりに感謝状が渡され、10年間の頑張り、努力に対してのねぎらいの言葉が添えられました。28人の10年間の思い出が込められたコメントは、次項で掲載しております。

「フットワークの良い医療」を旗印に開院した2004年7月、単純明快で誰もが理解できる理念の下、理想の医療を求め、不安と期待のなか始まった病院運営でした。

会では当時の貴重な体験談が後輩職員に伝えられ、地域医療の中核を担う施設に成長したことの誇りと、それを維持していく責任を確認し合いました。

◎開院時から勤務する職員のコメント◎

看護部長　今　貴恵子
いろいろな事を勉強させて頂いた10年でした。「感謝」の気持ちを忘れずに、また新たな気持ちで何事にも誠実に、真摯に向き合って行きたいと思います。

透析室看護師長　辻　和子
患者様にこのクリニックに来て良かったと少しでも思って頂ける様、患者様の気持ちに寄り添う事が出来る様、挨拶、話し方、姿勢、立ち振る舞い等に気を付けています。これからも何でも話して頂ける様な雰囲気づくりや、職場環境づくりに努めます。後輩には平成生まれのスタッフもいる時代になりました。昭和生まれもまだまだ頑張ります。

透析室看護主任　間明　暁子
気付くともう10年経ったのですね。開院時から支えてくれた仲間がいたからこそ、今に自分があると思います。これからも地域の皆様に、安心して医療・看護を提供出来る様、頑張って行きたいと思います。

透析室看護主任　中井　純子
いぶ腎に努めて10年。子育て、仕事etc、あっと言う間に駆け巡った10年でした。気が付けば半世紀間近に…。今出来る事を頑張ろう！

病棟看護主任　田中　麻記
クリニックの10周年は私にとっても伊達で生活を始めた10周年になります。これまでたくさんの人と出会い、たくさんの学びがありました。振り返ると年齢を重ねた事をしみじみ実感します。これからも新しい出会いを大切にして頑張って行きたいです。

外来看護主任　高橋　亜由子
10周年おめでとうございます。もう10年経ったんだなぁと言うのが一番の感想です。本当にあっと言う間でした。これから先も院長を中心に頑張って行けたらと思います。

透析室看護師　野村　佐枝子
新たな決心をしてから10年。たくさんの出会い、仲間に感謝です。

透析室看護師　水合　章江
この10年変わった事は、わが子同様の年齢のスタッフが四分の一になった事と、しゃがんだ時に膝がバリバリ鳴るようになった事です。皆から元気をもらい10年も働けた事にただただ感謝です。

病棟看護師　岡本　葵
祝♪開院10周年！あっと言う間の10年でした。途中何度となく悩んだり挫折しながらも仕事を続けて来られたのは、家族の支えもありますが、何と言っても河野師長と田中主任、職場のスタッフの力が大きいです。子供が出来て、迷惑を掛けながらですが働いていられる事に感謝です。何より誇れるのは全員のチームワークが半端じゃない！みんなの笑顔が素敵♪そして丁寧な看護は開院時から何も衰えず今まで来ているなぁと確信できます。これからも誇れる仲間と共に、初心を忘れず頑張ります。

外来看護師　丸山　敦子
開院からいた外来スタッフは10年目を迎え現在3名。多くの別れと出会いがありましたが、今この外来があるのは今まで頑張って来たスタッフの力があったからだと思っています。

透析室看護師　梅田　理咲
とても長く、けどあっと言う間の10年でした。何もないところから病院を築き上げる事は、とても大変な事でした。けど、私にとってこの10年は新しい発見や苦労、スタッフの協力などいろいろな貴重な体験が出来たと思います。今までの頑張りはもちろん、さらに新しい気持ちで頑張り、またいろいろな体験が出来れば良いなぁと思います。

透析室看護師　佐藤　恵美子
公私とも山あり谷ありの10年間。これもひとえに皆様のお陰です。

外来看護師　石川　真由美
いろいろと忙しい10年でしたが、開院後に生まれた息子も先日9歳の誕生日を迎えました。

病棟看護師　香川　正吾
挑戦の10年。たくさん失敗したけれど、前に進めて来たことを素直に喜びたい。この10年で関わったすべての患者様、同僚に感謝し、立ち止まらずに今後も様々な事に挑戦して行きたいです。

病棟看護師　山本　正子
10年と聞くと長く感じますが、あっと言う間でした。今こうして一緒に働いているスタッフがいてくれて、自分も頑張って来れたと思うので、感謝を忘れずにこの先も頑張って行けたらいいなぁと思います。

透析室看護師　大塚　まどか
知識や技術を身につけて成長したいと思いながら、当クリニックで従事させて頂きもう早10年の月日が経過しました。今後も常に前を向き成長して行きたいと思います。

病棟看護助手　荒川　真理
クリニックが開院し、私自身も勤務して10年が経ちました。小学生と中学生だった息子たちも今は成人し社会人となり、時の早さを感じさせられます。かつも患者様のお役に立てる様頑張りたいと思います。

事務部医事課長　斉藤　美雪
たくさんの出会いがあり、とても充実した10年間でした。一緒に働いて来た全ての方に感謝して、これからも自分自身成長して行ける様、努力して行きたいと思います。

事務部医事課　清野　宏美
10年は長い様であっと言う間でした。この10年間でたくさんの人に出会い、多くの事を学ぶ事が出来ました。この貴重な経験は今後の仕事や生活に活かして行きたいと思います。

事務部次長　橋本　耕蔵
正直、あっと言う間の10年間でした。開院当時は医療の右も左も解らず戸惑いの毎日でしたが、良い上司・仲間に恵まれ、自分が成長するのが日々感じられる10年だったと思います。入社してからは今までよりも仕事もプライベートも充実し、楽しい事ばかりで人生の中でも忘れられない期間でした。今後もいろいろな方々のお力添えを戴きながら、今以上の充実した仕事・生活を送って行き、地域・職場に貢献出来る人物になって行きたいと思います。

透析室看護師　小川　彰子
振り返ってみるとあっと言う間の10年でした。スタッフに助けられてここまで来れたと思っています。ありがとうございました。これからも頑張ります。

病棟看護師　櫻庭　典子
素敵な皆さんと仕事が出来、娘と同じ職場で一時仕事をする事が出来ました。夏には一人目の孫も生まれる予定で、おばあちゃんナースは遠近両用メガネで頑張ります。

透析室看護師　工藤　こずえ
仲間や家族など多くの人の支えがあって、この10年間を過ごす事が出来ました。たくさんの人に感謝し、これからも一生懸命頑張って行きたいと思います。

手術室看護師　萬徳　敦美
地域の人たちとの信頼を築くのに、長い様で短く、忙しい中であっと言う間の10年でした。体と頭は10年前と同じ様には動きませんが、器量でカバーします。

臨床工学技士長　齋藤　光俊
山あり谷ありの10年間でしたが、ここまで来られたのも親切にしてくださった患者様やスタッフのお陰だと思っています。そんな方達への感謝の気持ちを忘れずに、今後も頑張りたいと思います。

臨床工学副技士長　重山　龍二
伊達で生まれ育った自分が、初めて就職した先が「いぶり腎泌尿器科クリニック」でした。クリニックと共に過ごした10年間、振り返ればたくさんの楽しい事、苦しい事がありましたが、クリニックの開院10周年と就職しての10年目を同時に迎える事が出来て嬉しいです。今後もクリニックに負けない様ともに成長して行きたいと思います。

外来看護助手　小山　美枝子
たくさんの出会い。10年ぶんの思い出。まだまだこれからもしょうじんして、頑張って行きます。

column コラム 待合室 No.30

変革のとき

○…確か昭和40年位まで、室蘭の港北町と海岸町を結ぶ通船の定期航路があった。港北町側の乗り場は本輪西駅近くの鉄橋を渡った先、栗林埠頭を望む所にあった。隣には室蘭栄高漕艇部の艇庫があり、天皇陛下に頂いたという伝統のボートで練習に励む光景も見かけた。当時小学生だった筆者も、この定期船には何度も乗船した。結構な利用客がいたように思うが、マイカーの普及からか、いつの間にか航路はなくなっていた。

○…昭和44年には人口18万人を数え、間もなく20万都市への呼び声が高まっていた室蘭も、オイルショックを境に人口減少が始まり、間もなく9万人を割ろうとしている。思い返してみると、通船が消えたのを契機に減少は始まった。時代の変革は、その姿を見せることなく着々と進行して、世の中の仕組みを大きく変えてしまう。

○…時代は今まさに変革期といえ、人々に気づかれることなく進行している。現在一番激しく変わっているものは情報だろう。パソコンから携帯、スマホ、タブレット。インターネットは瞬く間に広がり、世界を席巻した。送信するデータ量も飛躍的に拡大し、世界が一気に狭まった感さえする。

○…この流れに翻弄されているのが新聞、テレビ、雑誌などのメディアだ。新聞は購読しない世帯が全国で加速度的に広がっており、この流れが劇的に変化することはないだろう。あと数年で現状が大きく変貌することは間違いない。

○…今問題なのは、テクノロジーの進歩によるスピード感ではなく、情報の、あるいは各分野の質の問題だ。本質の停滞や低下の方が、急速に進む「技術の影響」よりも遥かに問題がある。物事の核心が、技術力に負けたわけではない。

○…あの通船のテンポ感というか、当時の地域社会の在りようが懐かしい、人口は現在の2倍あったが、周りの顔は良く見えていた。震災以降よく言われる「絆」という繋がりがあり、それがどういうものか何となく分かっていた。物事の本質は身近な所にあり、「安心感」が、あの時代にはあった。現在も当時と変わりなく、人々はスピード感など求めていない。「疑い」から始まる危機管理はいつから始まったのか？信じ合えない社会の在り方の原因は、「本質」を伝える使命を持ったメディアにも責任がある。素に還り、何をどう伝えるのか考え直す時は、既に過ぎている。